資料－１

将来像の検討

①大地の活力とうまんちゅの魂が創り出す自然共生の清らまち

②大地の**恵み**とうまんちゅの**活力**で創り出す自然共生の清らまち

③大地の活力とうまんちゅの**心**で創り出す自然共生の清らまち

資料－２

## 新町建設計画を策定するに当たっての将来像の制定に係る考え方

この２町村については、先人が培ってきた歴史・教育・文化に誇りを持ち、活力ある産業に支えられ、住民一人ひとりがいきいきと元気に暮らし、水と緑にあふれた豊かな自然と共生し、ここに生まれ育って良かったと誰もが実感できるまちが掲げられています。

新町においても、両町村が共通して進めてきたこのような基本方向を踏襲するとともに、地方分権時代の牽引役として自己決定・自己責任のもと住民と行政による協働のまちづくりや、男女共同参画社会形成という新しい課題を踏まえ、地域の個性を生かした均衡ある発展に配慮しつつ、交流連携の強化を図る必要があります。

このように新町が自立したひとつのまちとして、地域の特性を活かしながら、広域的な視点からまちづくりを進め、住民が新町に対する誇りや自信を持てるまちを目指すため、新町建設のまちの将来像を次のとおり設定します。ということで、

**「大地の活力とうまんちゅの魂が創り出す　人とまちが輝き躍動する自然共生の清らまち」**ということになります。

「大地」の中には万物、自然のすべての恵みですね。

「活力」には生きる力。

「うまんちゅ」には、地域に住む住民の方々ですね。

「魂」というのは精神力、気力というのが含まれております。そういった大地の活力とうまんちゅの魂でもって躍動する、

「躍動」の中にはあふれるばかりの元気、若さを持って活動することということで、その地域にある資源、また住民の方々が自然とともにつくっていくまちを目指していくということとなります。サブタイトルとして「交流と連携による島尻地区発展の一翼を担う都市を目指して」ということになっております

資料－３

## たましい【魂】ﾀﾏｼﾋ

① 動物の肉体に宿って心のはたらきをつかさどると考えられるもの。古来多く肉体を離れても存在するとした。霊魂。精霊。たま。万一五「一はあしたゆふべに賜ふれど吾が胸痛し恋の繁きに」。宇津保嵯峨院「一や草むらごとに通ふらん野辺のまにまに鳴く声ぞする」。「一が抜けたような姿」

② 精神。気力。思慮分別。才略。大鏡師輔「御舅達の一深く、非道に御弟をばひきこしまうさせ奉らせ給へるぞかし」。「一をこめる」

③素質。天分。源絵合「筆取る道と碁打つことぞ、あやしう一のほど見ゆるを」。「三つ子の一百まで」

④精進鬚(ｼｮｳｼﾞﾝﾏｹﾞ)に同じ。

→〓一尽く　→〓一を入れ替える　→〓一を冷す

## かつ‐りょく【活力】ｸﾜﾂ‥

活動のもとになる力。生命力。「経済に一を与える」

→〓一‐せつ【活力説】ｸﾜﾂ

## めぐみ【恵み】

めぐむこと。なさけをかけること。あわれみ。いつくしみ。地蔵十輪経元慶点「微く賜ひ恤ﾒｸﾐすることを自らの国土に加へたまひぬ」。「天の一」

→〓一の雨

## こころ【心】

(禽獣などの臓腑のすがたを見て、コル(凝)またはココルといったのが語源か。転じて、人間の内臓の通称となり、更に精神の意味に進んだ)

①人間の精神作用のもとになるもの。また、その作用。

②知識・感情・意志の総体。「からだ」に対する。大鏡文徳「この帝…御一明らかに、よく人を知ろしめせり」。「一の病」

③思慮。おもわく。源浮舟「一もなかりける夜のあやまちを思ふに」。「一を配る」

④気持。心持。万一七「いつかも来むと待たすらむ一さぶしく」。「一が変る」

⑤思いやり。なさけ。万一「雲だにも一あらなも隠さふべしや」。「一ない仕打ち」

⑥情趣を解する感性。新古今秋「一なき身にもあはれは知られけり」

⑦望み。こころざし。万三「結びてし言(ｺﾄ)は果さず思へりし一は遂げず」。